2025年環境レポート

新田ゼラチン株式会社

会社の取り組みの紹介

当社は1918年の創業以来、100年以上にわたり、牛の骨などの畜産・水産業の副産物を、独自の製造技術と研究開発によりゼラチンやコラーゲンペプチドといった付加価値のある製品に転換してきました。この未利用資源から新たな価値を創出する「アップサイクル型ビジネスモデル」は、当社の事業の根幹です。

私たちはこのビジネスモデルをさらに進化させ、食品、健康・美容、医療など様々な分野で人々の暮らしをより豊かにすることを目指します。同時に、事業活動が環境に与える影響にも真摯に向き合っています。主力製品の製造には多くの水資源とエネルギーを要するため、製造工程でのCO2、水、エネルギーの削減に注力しています。2022年6月には温室効果ガスの削減に関する基本方針を制定し、2030年度までにCO2排出量を46%削減(2013年度比)、2050年度までにカーボンニュートラルを実現するという高い目標を掲げました。

また、社会課題への対応が企業の持続的成長に不可欠であるとの認識のもと、地域社会との共生にも力を注いでいます。工場周辺の清掃活動といった取り組みに加え、八尾市と災害協定を締結。災害時には緊急一時避難場所としてグラウンドを提供するなど、地域の防災力強化にも貢献しています。

今後もサプライチェーン全体を視野に入れたGHG排出量の把握やライフサイクルアセスメントの分析を深化させ、社会、地域、そして当社グループで働く全ての人々に配慮した事業活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

環境方針

安全・環境方針

私たちは、社会、地域そして当社グループで働く全ての人々のために、環境、健康、安全に配慮した事業活動を行い、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

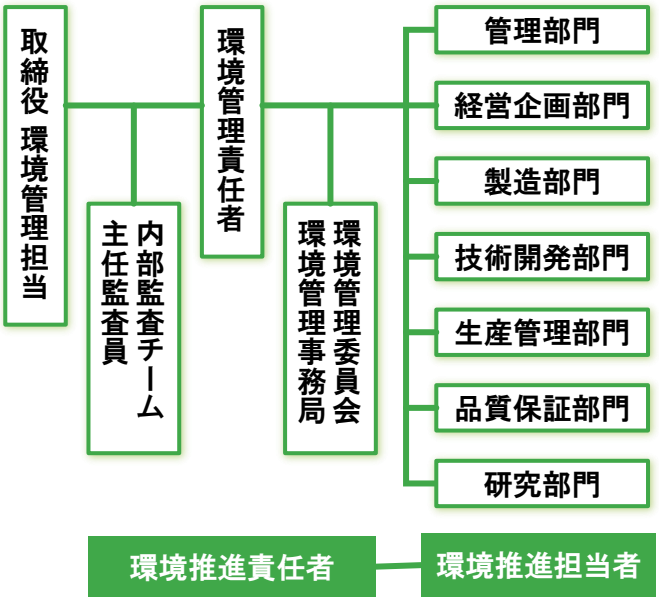
- 関連する諸法令を順守し、環境の保全、健康・安全の確保に取組みます。
- 事業活動が、環境、健康、安全に及ぼす影響を評価し、目標を定めて改善に取組みます。
- 当社グループで働く全ての人々に、安全・ 環境方針の周知徹底を行い、意識の向上に取組みます。

推進体制

本社・大阪工場では、経営層(環境管理担当)、環境管理責任者、各部から選任された環境推進責任者と主任監査員及び環境管理事務局から構成される「環境管理委員会」を四半期毎に開催しています。環境目標の進捗管理等、環境マネジメントシステムの運用状況については、同委員会で報告・協議し、方針決定いたします。

毎月各部署で収集される環境パフォーマンスは環境管理事務局で集約管理し、必要に応じて環境管理責任者が対応策を検討いたします。

マネジメントシステム全体の監視は内部監査チームが行っておりますが、構成監査員は適宜新しい要員と交代し、新たな視点と広い視野をもって取り組むよう努めています。



環境マネジメントシステムの取り組み

本社・大阪工場では、1999年にISO14001認証を取得して以来、環境マネジメントシステム（EMS）を構築・運用し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

環境担当取締役を委員長とする「環境管理委員会」を四半期毎に開催し、環境目標の進捗管理、EMSの運用状況の確認、環境関連法規制の遵守状況の確認などを行っています。

１．本社・大阪工場ＩＳＯの歴史

1997年　　環境マネジメントシステム(EMS)導入を決定
1998年 9月　環境管理委員会発足、EMS運用開始
1999年12月 ISO14001：1996 認証取得
（審査機関：一般財団法人日本品質保証機構）
2005年12月 ISO14001：2004 へ移行
2017年12月 ISO14001：2015 へ移行
2023年11月 更新審査を受け、認証を更新

２．本社・大阪工場ＥＭＳ適用範囲

登録活動事業者:新田ゼラチン株式会社 本社・大阪工場
所在地:大阪府八尾市二俣2－２２
登録活動範囲:1.下記製品の製造
1)食用、医薬用、写真用ゼラチン
2) 化粧品用、生体材料用、
生化学用コラーゲン
2.ゼラチン、コラーゲンの研究開発

ISO 14001
マネジメントシステム登録証

登録証番号：JQA-EM0675

登録事業者：
新田ゼラチン株式会社
本社・大阪工場
大阪府八尾市二俣２－２２

当機構は、上記事業者の環境マネジメントシステムを審査した結果、付属書に記載する範囲において、下記規格の要求事項に適合していることを証します。

ISO 14001 :2015 ／ JIS Q 14001 :2015

登録日　：1999年 12月 28日
登録更新日　：2023年 12月 28日
有効期限　：2026年 12月 27日

本登録証の有効性は、当機構までお問い合わせの上、確認することができます。

一般財団法人 日本品質保証機構
理事長　石井 裕晶

本証には付属書がありますので、合わせてご覧ください。

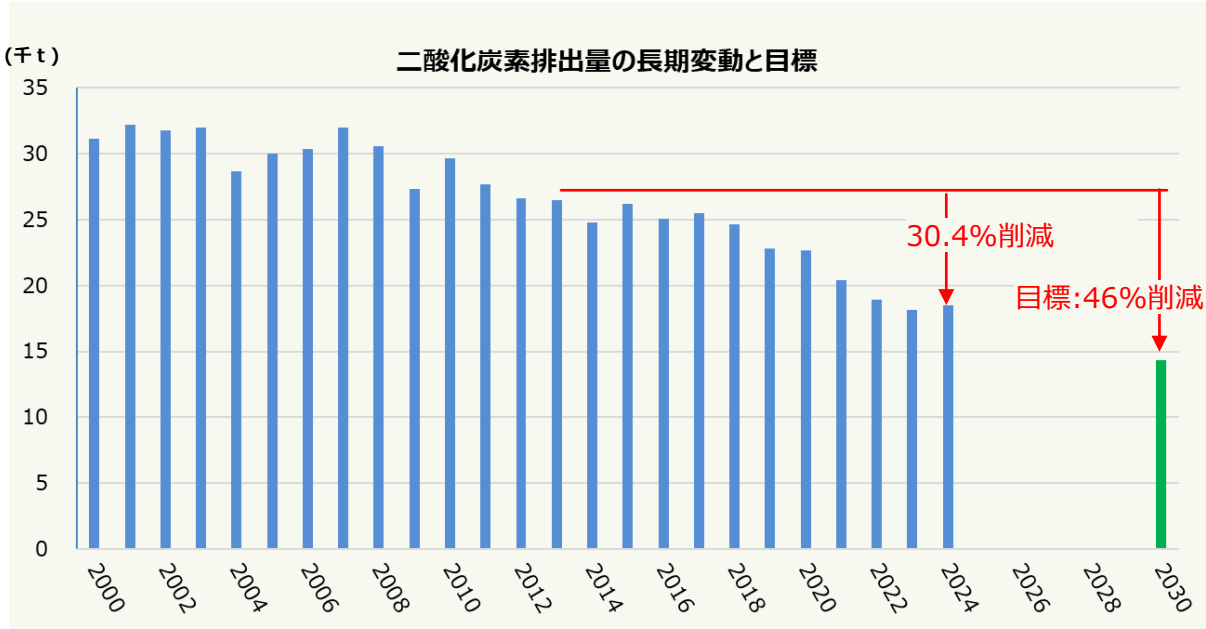
ISO14001 マネジメントシステム登録証

温室効果ガスの削減に関する基本方針

当社は、生産段階における二酸化炭素削減に関する基本方針として、2030年度までに2013年度対比46%削減、2050年度までに「カーボンニュートラル実現」を目指して、取り組みを推進します。

二酸化炭素排出削減の取り組み

当社は1918年の創業以来、地域社会の一員として環境に配慮した生産活動を行ってきました。各製品の生産にあたっては、多量の水資源・エネルギーを必要とするため、従来から二酸化炭素削減・省エネ・水資源削減等、積極的かつ継続的に取り組み、CO2排出量削減に努めています。
2024年度の大阪工場全体のCO2排出量は2013年度対比では30.4%の削減となりました。これは、上期の排水処理安定化に伴う一部設備の稼働日数増加や、気温上昇による冷却設備の負荷などが影響し、前年度(2013年度比31.6%削減)からは若干後退する結果となりました。当社はこれからも環境負荷を軽減するための積極的な取り組みを通し、持続的発展が可能な社会の実現に注力してまいります。2025年度は、排水処理工程から排出される汚泥を削減する設備の本格稼働により、二酸化炭素排出量の削減を見込んでいます。



近年の主な取り組み

2012年　高効率型濃縮機導入による省エネ・二酸化炭素削減

2013年　高効率型濃縮機の安定稼働

2014年　コージェネ排熱回収設備の導入

2016年　排水処理施設への負荷低減対策と大規模保全工事を実施

2017年　排水処理施設の改良を継続
冷温水機の第一期更新と運転最適化

2018年　新原料対応設備の設置完了
冷温水機の第二期更新

2019年　冷温水機の第三期更新(全台更新完了)

2020年　ボイラー更新による熱効率アップ
乾燥機の排熱回収

2022年　大阪工場の電力の大半を再生可能エネルギー由来に変更

2023年　GHG排出量の包括的分析を実施

2024年 汚泥削減による排水処理工程の負担軽減設備試運転開始。

気候変動への対応強化

GHG排出量の包括的分析

当社は、気候変動問題への対応を強化するため、継続してGHG (温室効果ガス) 排出量の包括的な分析を実施しています。
2024年度のスコープ1+2排出量（大阪工場）は約18.5千トンとなりました。スコープ2排出量については、2022年度に大阪工場の電力を再生可能エネルギー由来電力に切り替えたことによる大幅な削減効果が継続しています。
スコープ3排出量（その他の間接排出）については、引き続きサプライチェーン全体のGHG排出量の算定と分析を進め、特に排出量の大きいカテゴリー（購入した原材料の製造段階、輸送段階など）における削減策を検討しています。

ゼラチン製品のLCA分析

当社は、2023年度にゼラチン製品のライフサイクルアセスメント（LCA）を実施し、原料調達から製造、出荷までの各段階における環境負荷を分析しました(2022年度実績データに基づく) 。

この結果、以下のようなことを認識できました。
- 原料調達段階：原料の製造と輸送に伴う環境負荷が大きいこと
- 製造段階：エネルギー使用、特に熱エネルギーの使用による環境負荷が大きいこと
- 排水処理段階：汚泥の処理に伴うエネルギー使用による環境負荷が発生していること

これらの分析を基に、以下のような対策を検討してまいります。
- サプライヤー行動規範に基づく、サプライヤーとの協働、モニタリング
- 排水処理設備、汚泥処理の改善

2024年度 環境活動実績　（2024年4月1 日～ 2025年 3 月 31 日）

本社・大阪工場では、年間計画に基づいて環境目標を設定し、環境活動を推進しています。
2024年度の環境活動実績は以下の通りです。省エネルギーの推進（製造エネルギー原単位）、CO2排出量削減（大阪工場全体）、水資源の削減（取水量原単位）については目標未達となりました。これらの未達要因を分析し、2025年度の活動に活かしてまいります。

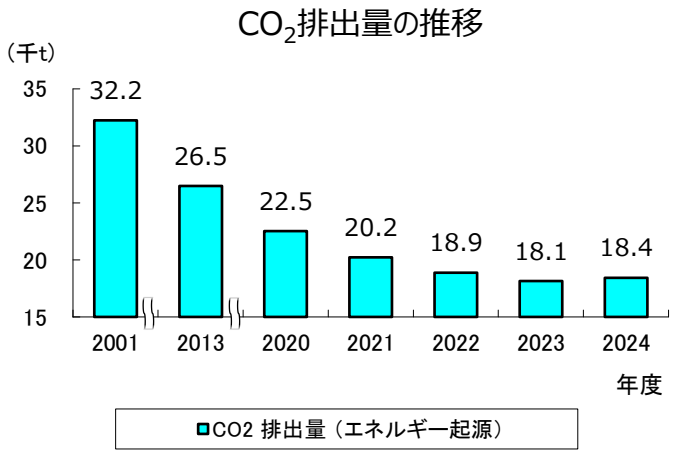
環境目標	環境テーマ・目標値	実 績	評価
環境法規制順守	環境法規制に基づく運用管理の徹底（法順守）	予定通り実施	○
	是正措置の実施	異常なし	○
	環境影響の予測	更新設備アセスメント1件実施	○
CO_2排出量削減	大阪工場全体のCO_2排出量削減（前年度比1.0%削減）	目標未達（前年度比1.6%増加）	×
水資源の削減	取水量原単位の抑制（前年度実績未満）	目標未達（前年度比0.9%増加）	×
省エネルギーの推進	製造エネルギー原単位の抑制（原油換算　前年度1.0%削減）	目標未達（前年度比1.5%増加）	×
廃棄物の適正処分	廃棄物リサイクル化の維持・管理	廃棄物リサイクル率 99.8%	○
紙資源の削減	コピー用紙の使用量の削減（前年度実績未満）	目標達成（前年度実績から33%削減）	○
環境教育の推進	一般教育の推進　（都度）	予定通り実施	○
	教育活動の推進（教育・セミナーの実施3回/年）	予定通り実施	○
	指定業務教育の推進　（都度）	予定通り実施	○
	内部監査員教育の推進 (1回/年)	予定通り実施	○
工場周辺の環境整備	地域清掃の実施　（2回/年）	予定通り実施	○
	工場パトロールの実施　（4回/年）	予定通り実施	○

○ ： 目標達成
△ ： 前年実績より改善したが、目標未達
× ： 前年実績・目標ともに未達

CO_2排出量・水資源の削減と省エネ活動について

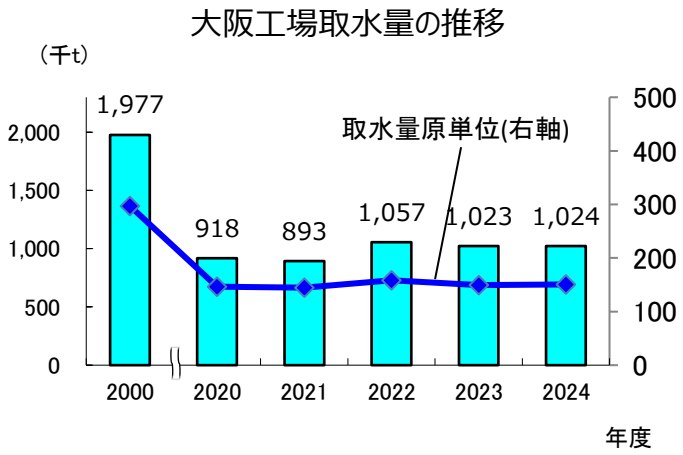
CO_2排出量削減について

2024年度の大阪工場全体のCO2排出量は、前年度比2.1%増となり、目標未達でした。これは主に、上期における排水処理設備の安定稼働を目的とした一部乾燥設備の稼働日数増加や、夏季の気温上昇に伴うゼラチン製造用冷却設備の高負荷運転が影響しました。2024年度に試運転を開始した排水処理工程の負担軽減設備の本格稼働により、2025年度はさらなるCO2排出量の削減を目指します。



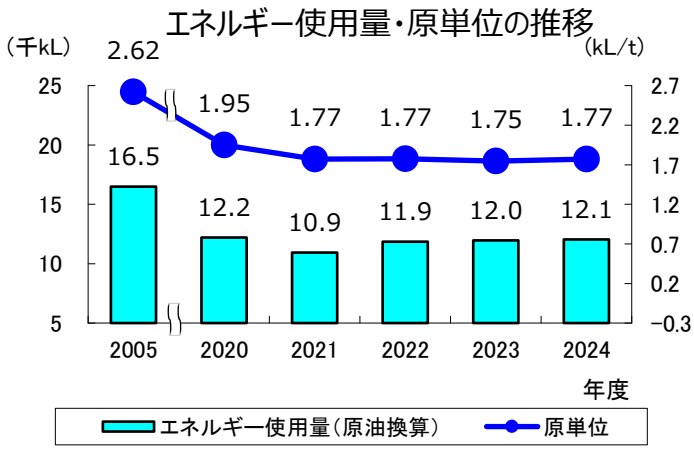
水資源の削減について

ゼラチンの抽出工程では多くの水資源を使用します。また、品質の維持・向上のために、設備の洗浄作業でも水を多く必要とします。2024年度の取水量原単位は前年度実績から微増し、目標未達となりました。製品の品質を維持しながら、引き続き取水量の削減や再利用への取り組みを強化します。



省エネルギーの推進について

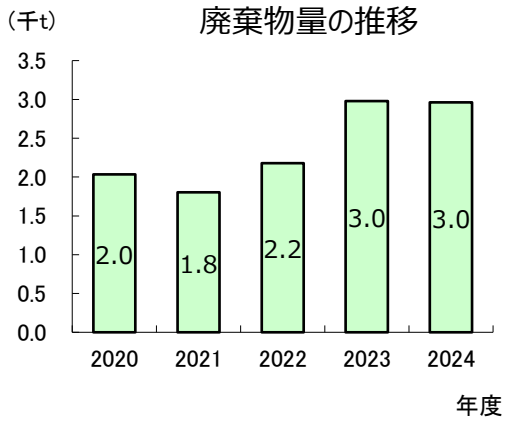
2024年度の製造エネルギー原単位は前年度比3.4%増となり、目標未達でした。CO2排出量増加と同様の要因が影響しています。エネルギー消費設備の運用最適化、高効率設備への更新検討などを通じ、省エネルギーを推進します。2025年度は排水処理工程の曝気装置の運転を最適化し、エネルギー原単位の削減を図る予定です。



省資源活動（廃棄物管理・紙資源）

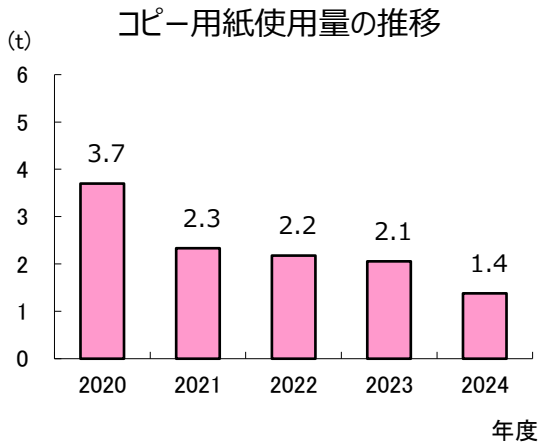
廃棄物管理について

肥料化していた排水処理工程の汚泥の一部を2023年度に廃棄物扱いに変更した影響で、2023年度は廃棄物量が増加しましたが、廃棄物を削減するための設備改造を2024年度に実施し、試運転を開始しました。設備の安定稼働により、2025年度以降の廃棄物量削減を目指します。



紙資源の削減について

2020年度より全部署でペーパーレス化を積極的に進めた結果、2024年度のコピー用紙使用量は1,378kgとなり、前年度実績（2,100kg）から大幅に削減し、目標を達成しました。これは2019年度比では約70%の削減となります。引き続き、業務プロセスのデジタル化などを通じて紙資源の削減に努めます。



教育活動

本社・大阪工場で働く全ての従業員を対象に、新入社員教育、一般教育、推進担当者教育等を推進し、意識向上に努めています。

1．環境セミナー

工場の全従業員を対象に環境一般セミナー（フロン排出抑制法に基づく管理者の義務）を動画配信形式で実施し、従業員の環境意識向上を図りました。

環境一般セミナー 資料

2．地球温暖化防止に向けた改善提案

今後のさらなる二酸化炭素削減には、従業員すべての理解と取り組みが不可欠です。2021年より、「地球温暖化防止に向けた私の改善提案」を開始し、優秀事例の紹介と顕彰を通じて啓発に努めています。

優秀事例の紹介

緊急事態対応

1．消防訓練・防災訓練・緊急事態訓練

2024年度も定期的に消防訓練・防災訓練を実施しました。地震や火災を想定した避難訓練、自衛消防隊による放水訓練などを行い、緊急時における従業員の対応能力向上を図っています。

また、薬品漏洩等の事故・緊急事態を想定した模擬訓練も実施し、対応手順や連絡体制の確認を行いました。

消防訓練

防災訓練

企業市民としての活動

社会貢献活動

地域の方々との様々な関わりの中で、皆様から信頼される良き企業市民として地域社会との共生に努めています。

１．ブドウ収穫ボランティア活動

大阪府の「大阪農業つなぐセンター」が創設した副業やボランティアなどで農業への参画を希望する企業と、農作業への応援を求めている農業者をマッチングする大阪府のアグリパートナー連携協定制度の「農業体験・ボランティア」分野の初事例として協定書を2021年に締結し、毎夏ブドウの収穫作業を行っています。

ブドウの収穫作業

２．さくらカフェ&コラーゲンショップ

2021年11月に、カフェを併設した当社コラーゲン商品の売店をグラウンドに設置しました。

このカフェは近隣の皆様の憩いの場としてもご利用いただいています。

カフェを併設した売店

３．地域清掃・環境パトロール

９月に八尾市の清掃キャンペーンに合わせて工場周辺の清掃を実施し、62名の従業員が参加しました。今年度は、延べ175名の従業員が近隣の清掃作業を行いました。このほか、四半期毎に環境パトロールを年4回実施し、周辺の環境美化に努めています。

工場周辺の地域清掃

４．大和川･石川クリーン作戦への参加

3月2日に大和川河川敷公園周辺で行われた「大和川・石川クリーン作戦in八尾」に、従業員有志が参加しました。この活動は、河川美化や水質改善、そして地域住民の環境保全意識を高めることを目的としています 。

大和川河川敷の清掃

５．グラウンドの防災拠点としての活用

グラウンドを開放し、新入社員が植えた染井吉野と枝垂桜の花を毎年春に近隣の皆様に楽しんでいただいています。2023年3月には八尾市と災害時の拠点使用協定を締結し、緊急一時避難場所として地域の防災力強化に貢献しています。

グラウンドの桜

６．ニッポンバラタナゴ保全活動

地元八尾市の高安地区に生息するニッポンバラタナゴ（環境省レッドリストで「絶滅危惧IA類」に指定されている希少淡水魚）を保護するNPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会の活動に参加し、2023年10月に正式会員となりました。

発行元　：　新田ゼラチン株式会社　本社・大阪工場
発行責任者　：　環境管理責任者 田中　琢也
発行日　：　2025年 6月 1日
お問合せ先　：環境事務局(管理本部 総務部 CSRチーム)
住所　：　〒581-0024　大阪府八尾市二俣2－22
電話　：　072-948-7190